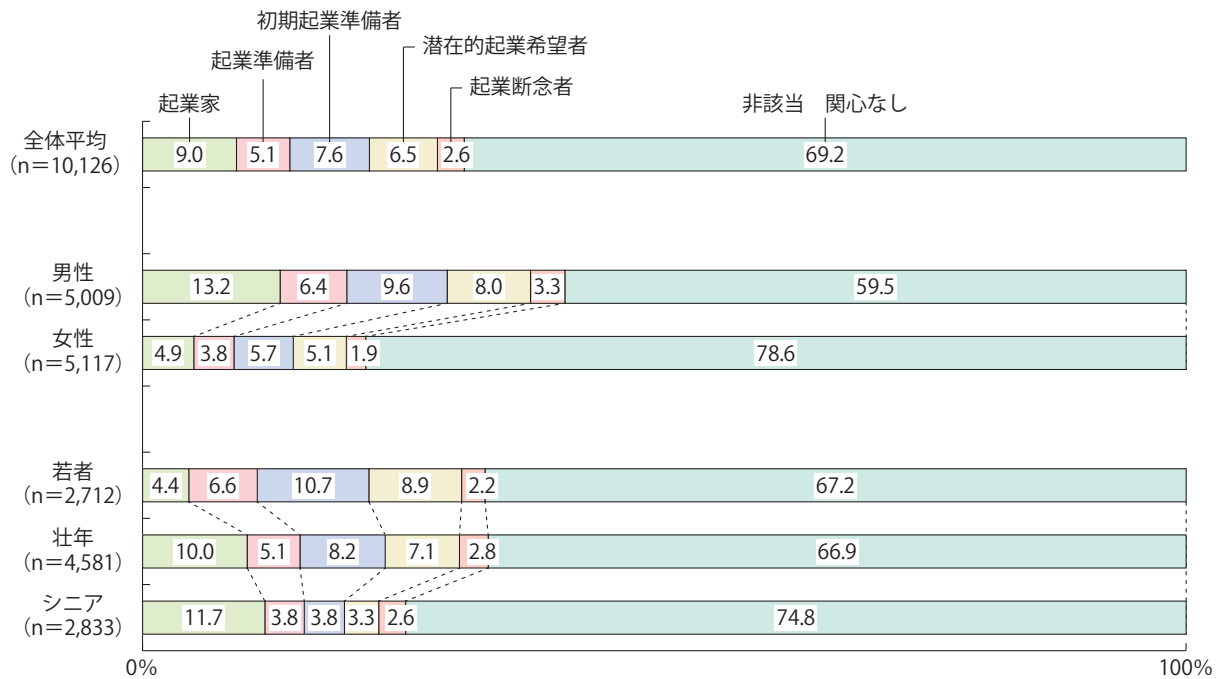


第3-2-12図

起業の担い手の分布



資料：中小企業庁委託「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」（2013年12月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)）

(注) 1. 本調査において、若者とは35歳以下、壮年とは35歳超から55歳以下、シニアとは55歳超とする。

2. 本アンケートにおける起業家とは、起業を経験した者をいう。

### ●起業を意識したきっかけ

まず、起業家に向けた第一歩として、起業に無関心な者が、どのようなきっかけで起業に興味を持ったのだろうか。第3-2-13図を見ると、全体として、「働き口（収入）を得る必要」が高くなっている。次に、女性や若者、シニアごとに詳細に見ていく。女性は、「時間的余裕（介護や子育て等が一段落）」や「家庭環境の変化（結婚・離婚、出産等）」といった家庭面に関する要因を挙げる者が多い。女性の起業は、家庭とのバランスや両

立を求められる度合いが強いことが推察され、この点、後述する起業のステージごとの課題や不安においても同様な特徴が見いだせる。次に、若者の特徴として、「周囲の起業家の影響」や「本やテレビ、インターネット等の影響」を受ける者が多く、若者は身の回りの環境に敏感に反応する傾向がある。一方で、シニアは退職を期に起業を意識する者が多く、退職後の第二の人生、すなわちセカンドライフの選択肢の一つとしての起業の役割が高くなっていることが分かった。